

平成 27 年度

消防団活性化ワークショップ報告書

## はじめに

阪神・淡路大震災の経験や東日本大震災の教訓を活かし、安全・安心な兵庫をつくるため、地域防災力の強化は必要不可欠です。平成25年12月には、「消防団を中核とした地域防災力充実強化に関する法律」が定められ、消防団の役割はさらに重要なものとなり、その活動も多様化しています。しかし、昨今の少子化や就業構造の変化などにより、消防団員数は減少を続けており、消防団員数の確保や活性化は、全国的にも大きな課題となっています。

このような課題に対する対策を考え、今後を活かすため、当協会では、「消防団活性化ワークショップ」を行うこととなりました。

消防団の役割や必要とされる消防団活性化のための対策は、地域によって異なります。そのため、当県内の3つの地域（阪神・中播磨・但馬）において、それぞれ各3回にわたり、各地域ごとに消防団関係者等が集い、消防団が直面している課題についての検討を行いました。

今後における消防団員確保及び活性化対策の一助になれば幸いです。

# 目 次

## I 平成27年度消防団活性化ワークショップ 実施結果（概要）

## II 開催地域消防団の概要

## III 実施内容（第1回～第3回）等

### 【参考】

- ・ 第1回ワークショップにおける講師の資料
- ・ 兵庫県下消防団員条例定数及び実団員数
- ・ 女性消防団員の採用状況について
- ・ 消防団協力事業所表示制度の導入状況
- ・ 機能別消防団員制度について
- ・ 消防団員応援事業所登録数一覧

# I 平成27年度消防団活性化ワークショップ実施結果（概要）

## 1 目的

消防団の役割や必要とされる消防団活性化のための対策は、地域によって異なっている。そのため、地域ごとに消防団関係者等が集い、自主的なワークショップを開催することで、当該地域において消防団が直面している課題についての検討を行い、今後の取組みとして実践するとともに、他の地域における検討に反映させる。

## 2 開催地域（※県下3地域で実施）

- ① 阪神地区 尼崎市消防団
- ② 中播磨地区 福崎町消防団
- ③ 但馬地区 養父市消防団

## 3 参加者

### (1) 消防団員

各回 10 数名程度（各回の趣旨や内容等に応じて選定）

### (2) ワークショップ開催地区の消防団関係者等

消防団長、消防本部職員、市町消防団担当者、県消防協会事務局 等

## 4 ワークショップ実施内容等

### 第1回（平成27年7月～8月上旬実施）結果

・各地域における課題について、それぞれ消防庁「消防団員確保アドバイザー派遣制度」により講師を派遣し意見交換を行った。

#### ①尼崎市消防団

開催日時：平成27年7月25日（土）午前10時00分～12時00分

開催場所：尼崎市消防局防災センター

参加者：団長及び副団長6名、消防局職員9名 計16名

講師：瀬戸市消防本部次長兼瀬戸市消防署長 森山修次氏

内容：消防団員入団促進活動について

消防団員高齢化対策について

地域住民等に対する消防団活動への協力・支援・啓発について

#### ②福崎町消防団

開催日時：平成27年7月26日（日）午後1時00分～午後3時00分

開催場所：福崎町サルビア会館

参加者：団長及び副団長8名、役場職員3名 計12名

講師：広島市西消防団女性隊隊長 神村登紀恵氏

内容：少子化に伴う今後の消防団員の確保について

消防団活動に対する事業所の協力体制について

#### ③養父市消防団

開催日時：平成27年8月4日（火）午後7時30分～午後9時30分

開催場所：養父市立八鹿文化会館

参加者：団長及び女性消防団員12名、市職員4名 計17名

講師：（元）野州市消防団副団長 山本きぬ江氏

内容：女性消防団の活性化について



### 第2回（平成27年11月～12月）

・各地域における実情を踏まえた課題等の確認と取組方策について意見交換

#### ①尼崎市消防団

開催日時：平成27年11月28日（土）午前10時00分～12時00分

開催場所：尼崎市消防局防災センター

参加者：団長及び副団長6名、消防局職員9名 計16名

内容：①消防団員応援事業所モデル事業実施に係る取組みについて

②消防団員入団促進及び地域住民への普及啓発活動について

#### ②福崎町消防団

開催日時：平成27年11月29日（日）午後10時00分～午後12時00分

開催場所：福崎町役場

参加者：団長及び副団長8名、役場職員3名 計12名

内容：消防団員の確保と消防団協力事業所について

#### ③養父市消防団

開催日時：平成27年12月2日（水）午後10時30分～午後12時00分

開催場所：養父公民館視聴覚室

参加者：但馬地区各消防団長10名、各消防団事務局職員10名 計20名

内容：但馬地区各消防団の活動や取組み及び消防団員確保対策等について



### 第3回（平成28年1月～2月実施）結果

※若手消防団員意見交換会との包括開催

・次代を担う若手消防団員から見た消防団の現状、課題や、若手消防団員が考える消防団活性化方策、消防団の将来等について意見交換

#### ①阪神地区

開催日時：平成28年2月14日（日）午後3時30分～午後5時00分

開催場所：ホップインアミング

参加者：消防団員15名、各消防団事務局職員等14名 計29名

内容：若手消防団員が考える消防団員の確保対策と消防団の活性化等について

#### ②中播磨地区

開催日時：平成28年1月23日（土）午前10時00分～午後12時00分

開催場所：姫路市防災センター

参加者：消防団員20名、各消防団事務局職員等8名 計28名

内容：若手消防団員が考える消防団員確保対策と理想の消防団（員）について

#### ③但馬地区

開催日時：平成28年1月24日（日）午前10時00分～午後12時00分

開催場所：養父公民館

参加者：消防団員15名、各消防団事務局職員等7名 計22名

内容：消防団員確保対策に係る若手消防団員の考え

## 5 ワークショップ実施してわかったこと

### (1) 現状

消防団の活性化と消防団員の確保対策について、県下3地区で3回にわたり実施した意見交換の内容は以下のとおりである。

	課題（テーマ）	現 状	意 見
尼 崎 市	【第1回】 ①消防団員 入団促進活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被雇用者が多い都市部の団員確保が難しい。</li> <li>・地域住民等に対する協力、支援及び啓発の推進が難しい。</li> <li>・消防団員の高齢化が進んでいる。</li> </ul>	<b>【講師からの助言】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な広報や入団資格の拡大、機能別消防団員の採用やOB団員の活用などによる団員確保。</li> <li>・消防団員応援事業所の実施等により地域住民との繋がりを深める。</li> </ul>
	【第2回】 ①消防団員応援 事業所事業実 施について ②消防団員入団 促進と地域住 民への普及啓発	①については、未実施である。 ②についての現状は、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の父兄へ広報している。</li> <li>・地区によっては、入団条件を設けているので、入団しにくい環境がある。</li> <li>・被服等が充実していない。</li> <li>・地元の人を勧誘しても、親が入団を反対する。</li> </ul>	①については、地域住民に消防団活動を知って貰うために実施していくべき。まずは、消防団員の経営している事業所への協力依頼からは始めて、実績を作ることとする。 ②については、地域住民へのPRを強化し、消防団のイメージを変換させていかなければならない。さらに、地元住民だけでなく新しく越してきた人にも勧誘を広げ、分団や地区で調整しながら、被服等の充実も図っていかなければならない。
	【第3回】 ①若手消防団員が 考える消防団員 確保対策と活性 化等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定数保持が厳しい。</li> <li>・消防団のイメージが悪く（消防団に入ったらしんどい）、地域から活動への理解が得られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の行事や訓練を通じて、消防団活動を知る機会を増やし、地域からの理解を得る。</li> <li>・消防団OBや学生消防団員の採用で、消防団員数を確保する。</li> </ul>
福 崎 町	【第1回】 ①消防団確保対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化に伴い、今後の消防団員確保への不安がある。</li> <li>・消防団活動に対する事業所の協力体制や理解が不十分である。</li> </ul>	<b>【講師からの助言】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の入団促進を図るため、甲斐市では新規採用職員全員が2年任期で消防団へ入団したり、熊本市では大学生を機能別団員として採用し、卒業時に正式な団員として採用するなどのケースもある。</li> <li>・消防団員の処遇改善、装備の充実・強化、訓練・研修の充実を図ることが重要。</li> </ul>

養父市			<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性消防団員の採用なども重要。</li> <li>・地域との連携強化については自主防災会との防災訓練等、地域アシスト制度、青年育成事業等に積極的に関わっていくことが大切。</li> </ul>
	<p>【第2回】 ①消防団員確保と消防団協力事業所</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事中に持ち場を離れると、仕事に支障が出る。</li> <li>・ 仕事場が町外であったり、遠方の場合、帰って来られない。</li> <li>・ 自営業が必ずしも動きやすいとは限らない。</li> <li>・ 携帯電話を職場へ持ち込めない。</li> <li>・ 消防団活動の必要性が浸透していない。</li> <li>・ 消防団のイメージが悪い（集まって酒を飲んでばかり）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職場の理解を得るため、消防団活動の映像配信などのPRを積極的に行い、イメージを改善する。</li> <li>・ 地域の祭りでは若い子に入団を勧めているが、若い子に興味を持ってもらうため高校へ出かけることは良いかもしれない。</li> <li>・ 今は定員確保できていて、平均年齢も若いがこの状態が続くことは難しい。</li> <li>・ 職場（事業所）の理解が最も重要であり、いかにして、消防団活動を理解してもらうかが課題。</li> <li>・ 消防団員応援事業所の実施を検討していく。</li> </ul>
	<p>【第3回】 若手消防団員が考える消防団員確保対策と理想の消防団（員）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何度も勧誘に赴いたり、自治会や訓練をとおした活動のPRを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団員の処遇改善、女性消防団員やOB団員の積極的な活用などを行う。</li> <li>・ SNSの活用や小中学校での消防団教育など、効果的な広報を行うことで、未来の人材確保にも繋げる。</li> <li>・ 理想は、家庭と仕事、消防団活動が両立でき、楽しい中にも責任感のある消防団として地域貢献できること。</li> </ul>
<p>【第1回】 女性消防団員の活性化について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 合併前の旧町単位で構成する方面隊ごとに活動しているため、女性団員が1～2名ほどしかない隊では、思うような活動ができない。</li> </ul>	<p>【講師からの助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは女性団員が活動しやすい環境作りが大切であり、男性団員を含めた組織全体で考えていくべきである。</li> <li>・ 女性消防団員は、地域の防火訪問活動や、団行事のアナウンスなどを行い、やりがいを感じてはいるが、もっと女性団員ならではのきめ細かい活動を広げるため、団員数を増やし、知名度もアップさせることが必要。</li> </ul>	

	<p>【第2回】 地区内各消防団の活動等と消防団確保対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域は地域住民で守るという意識が希薄になっている。</li> <li>・親が入団に反対する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能別消防団員制度を導入するなど、人員の確保に努め、さらに消防団員応援事業所表示制度を導入し、事業所への入札制度の優遇などを行う。</li> <li>・女性消防団員の積極的な採用を進め、各種行事への参加や防火思想の普及啓発活動を行い、地域住民との関係を深める。</li> </ul>
	<p>【第3回】 消防団員確保対策に係る若手消防団員の考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や訓練が多く、団員の負担が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団員の負担を軽減したシンプルな活動、そして企業との連携により、団員が活動しやすい環境をつくるのが、消防団の活性化と団員確保に繋がる。</li> </ul>



## (2) 結果

ワークショップを実施してわかったことは、消防団員自らが課題であると感じていることは概ね共通しており、解決するための方向性や対策についての意見は以下のとおりであった。

### 課題・・・感じていること

- 何もしなければ団員は減少する。定数を確保できていても、今のうちに対策を検討しておくべき。
- 自らの地域は地域住民で守るという意識が希薄になっている。
- 昔からその地域にいる人が減っており、また、高齢化している。
- 消防団に対する悪いイメージ（酒を飲んでばかりなど）を引きずっている。
- 若い人を勧誘しても、その親や周りの者が入団に反対する。
- 夜間や休日の活動など、「入団すればしんどい」と思われている。
- 勤務中に呼び出しがあっても職場を離れづらい。
- 入団すれば、地域で人の繋がりができたり、達成感が得られるなどのいいこともある。
- 自分たちが日頃どんなことをしているのか知ってもらえれば、消防団の必要性は理解してもらえる。

### 方向性・・・大事なこと

- 地域住民にまず消防団を知ってもらうこと。そして、地域と一体となることが大事。
- 人と人との繋がりが大切であり、常日頃の活動の中で既にできている人間関係をもっと活かしていく。
- 消防団に対する悪いイメージやマイナスな固定観念を払拭する。
- 学生や若い人に興味を持ってもらい、消防団活動の必要性を理解してもらう。
- 企業の代表者だけでなく、直属の上司や同僚など、従業員全体に消防団活動の必要性を理解してもらう。
- 新興住宅など、地域に新しく入って来た人への働きかけと入団しやすい環境づくり。
- 体制の維持・確保のためには、単に入団勧誘をするだけでなく、女性団員やOB団員の活用などいろんなことを検討しなければならない。
- 女性団員が活動しやすい環境づくりが必要。

### 対策・・・やるべきこと

- 日常的な活動をいろいろな方法（チラシ・映像等）でPRすることで、消防団活動に対する認識や理解を高める。
- 地域の一員である消防団員が活動しているところを、同じ地域の住民が目当たりのできる機会を設ける。
- 地域の行事（祭り、運動会等）やイベントに消防団（員）が積極的に参加することで、地域との連携や地元企業の理解を深め、また、若者との交流を図る。
- 企業に消防団活動への理解と協力を働きかけ、被雇用者団員が就業中に消防団活動に参加しやすい雰囲気や職場環境を作る。
- 将来の人材確保のため、小・中学生や高校生に対する消防防災思想の普及や、大学生の消防団活動への参加を図る。
- 地域で消防団（員）の存在を知ってもらい、また、地域全体で消防団活動を応援する機運を高めることを目的とした「消防団員応援事業所」を実施する。
- どのようにすれば女性団員が活動しやすいのか、男性団員も女性団員の活動に参加するなど、組織を挙げて考える。